

## 3 リカレント教育の推進

### 観光産業の中核人材の育成 ―ウエルネスツーリズムプロデューサー養成講座の実施―

地域の新しい成長産業として観光産業の活性化をめざし、2018年11月に産学連携による「滋賀の観光イノベーションフォーラム研究会」を立ち上げた。研究会で検討を重ね、2019年3月に「提言 滋賀の観光イノベーショングランドデザイン 2030」を公表した。グランドデザインでは、2030年の滋賀の新しいツーリズムの方向として、「Feel BIWA Energy ―湖国の資源を通じて、人生の充足、癒し、気付きが得られる地―」を掲げ、産官学で取り組む14のプロジェクトを提言した。その中の一つに、ウエルネスツーリズムの推進を盛り込んだ。

観光庁の「産学連携による観光産業の中核人材育成・強化事業」に採択され、ウエルネスツーリズムの人材育成を通じて、ウエルネスツーリズムプログラムを展開できる好機を頂いた。講座は、座学、視察、ビジネスプランの作成というプロセスを経て、受講者には次年度以降速やかに事業を展開してもらうことを企図した。2年目となる今年度はコロナ禍であったが、幸いにも全国から44名も応募頂き、20名の観光産業や健康産業の中核人材が受講した。活発な議論に基づき、8つの多彩なビジネスプランが提案された。本講座の概要を紹介する。

#### 1. 事業概要

##### (1) 目的

滋賀大学では、ウエルネスツーリズムを「自然散策、ヨガ、瞑想、フィットネス、スパ、食、レクリエーション、交流などを通して、地域の資源に触れ、心と身体をリフレッシュし、明日への活力を得る旅」と捉え、講座を行うこととした<sup>1</sup>。

滋賀大学が立地する滋賀県は、2015年に平均寿命で滋賀県の男性が全国1位、女性も4位となり、長寿県としてクローズアップされてきた。琵琶湖を中心に自然や文化資源が豊富で、県民が積極的にウォーキングやサイクリングなどの健康維持活動や、スポーツに親しみ、禁煙や発酵食品など普段の健康と食にも気を配っている。同時に、環境や福祉、地域づくり活動にも積極的に参加し、より良く生きる意識が高いことが理由としてあげられる。ウエルネスツーリズムを展開するいい条件にあるといえる。

シニアや外国人がツーリズムの主体となるなか、ウエルネスツーリズムは、これまでの観光の形態を滞在、体験型に変革していく大きな可能性を有している。本講座は、健康と旅に関する実践的なプログラムを通じて、事業創出、事業実施を推進する中核人材の創出、育成を図るものである。

##### (2) 実施概要

###### ① 事業名称

観光庁「産学連携による観光産業の中核人材育成・強化事業」

宿泊業をはじめとした地域の観光産業を担う中核人材を育成するために、社会人の学び直しのための教育プログラム構築・実施並びに自立・持続可能な産学連携による教育プログラム構築・実施の仕組みづくり等を行う。このよう

<sup>1</sup> 下記文献を参考にしつつ、滋賀県及び周辺地域で展開しやすいように設定。

荒川雅志(2017)「ウエルネスツーリズム-サードプレイスへの旅-」フレグランスジャーナル社

西村典芳(2016)「ヘルスツーリズムによる地方創生-健康長寿を目指して「お散歩でこの国を元気にする」-」カナリアコミュニケーションズ

森本兼暁・阿岸祐幸(2019)「温泉・森林浴と健康-自然の癒しから未病予防医学へ」大修館書店

NPO 日本ヘルスツーリズム振興機構ホームページ

な取組を通じ、地域の観光産業の経営力強化や生産性向上を実現させ、観光産業を我が国の基幹産業にすることを目指している。

②講座名称

ウェルネスツーリズムプロデューサー養成講座 2020

③主催及び事業実施

主 催：観光庁

事業実施：国立大学法人 滋賀大学

運営協力：国立大学法人 小樽商科大学

④受講対象者

ホテル・旅館、観光産業、サービス業や医療・福祉法人に従事している中核人材、又は観光産業に新規参入を考  
えている人材、観光戦略立案に関わる行政や関係機関の担当者

⑤募集定員・受講料

募集定員：15名（受講者は選考を行い決定）

実受講者数：20名

受講料：無料

⑥実施日程

全8回／2020年9月16日(水)、30日(水)、10月14日(水)、10月30日(金)～31日(土)、11月11日(水)、25日(水)、  
12月16日(水)、2021年1月13日(水)



⑦会場

- ・滋賀大学彦根キャンパス・講堂
- ・滋賀大学大津サテライトプラザ会議室（JR大津駅前日本生命大津ビル4F）
- ・県内各地
- ・現地視察研修先として静岡県

⑧後援・協賛

滋賀県・滋賀経済同友会・滋賀県旅館ホテル生活衛生同業組合・公益社団法人びわこビジターズビューロ  
ー・一般社団法人近江ツーリズムボード・滋賀銀行・関西みらい銀行・滋賀中央信用金庫・京都銀行

**実施大学名（滋賀大学）・ウエルネスツーリズムプロデューサー養成講座（第2期）**

<p>○事業概要（現状・課題、プログラムの目的・コンセプト）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 平均寿命で滋賀県の男性が全国1位、女性も4位（H27）となり、長寿県として注目。琵琶湖を中心に自然や文化資源が豊富な滋賀県では、県民が日常的にウォーキングや自転車などの健康維持、スポーツ活動に参加し、発酵食品など食にも気を配っていることが理由。</li> <li>■ 心と身体を整え、免疫力の強化に寄与するウエルネスツーリズムはアフターコロナ時代におけるツーリズムの主流になる可能性。昨年度に引き続き、滋賀をモデルに、滞在型観光地への転換、インバウンドの集客も狙い、全国各地でウエルネスツーリズムを推進するために、観光業界や関連業界と連携し、実践的なプログラムを通じて事業創出、事業実施を推進する中核人材の創出、育成を図る。</li> </ul>	
<p>・対象者・人数 ホテル・旅館、観光業、観光業に参入を考えている関連産業、観光協会、行政等20名</p> <p>・実施場所 滋賀大学大津サテライトプラザ、県内各地</p> <p>・実施スケジュール 9月よりほぼ毎月1回</p> <p>・総時間数 80時間（自学30時間含む）</p>  <p>滋賀大学講堂</p>	<p><b>カリキュラム内容</b></p> <p>ビワイチ SAPヨガ</p> <p>・カリキュラム概要</p> <p>9月16日 ウエルネスツーリズムの動向を知る 9月30日 ウエルネスツーリズムの意義を学ぶ 10月14日 テストツアーから考える 10月30～31日 先進事例2日間研修 11月11日 ビジネスプランの策定手法、課題提示 11月25日、12月16日 ビジネスプランの作成 1月13日 ビジネスプランコンテスト、修了証書授与</p> <p>・習得できる能力 アフターコロナ時代のツーリズムの動向、ウエルネスツーリズムの意義、推進のための健康、食等の基礎知識の習得、商品企画能力</p> <p>・特色のある講義や研修、教育方法など ディスカッション、ワークショップ、現地視察研修、テストツアー ビジネスプランコンテスト</p> <p>・社会人が受講しやすい工夫 ・利便性を考慮し、主にJR大津駅前の滋賀大学サテライトで実施。 ・講義内容を録画し、後日自宅等での視聴を可能とする。</p>  <p>伊吹もぐさでのお灸体験</p>  <p>菜の花エコプロジェクト</p>
<p><b>実施体制スキーム</b></p> <p>産学連携で設立した「滋賀の観光イノベーションフォーラム」で、適宜助言を受けるとともに、広く県内企業と連携して進める。</p> <p>滋賀経済同友会 — 滋賀大学（事務局） — 滋賀の観光イノベーションフォーラム（H30.11設立） 県内観光関連事業者10名</p>	

(3) 実施結果

① 提案されたビジネスプラン

講座の最終成果として、7グループプラン、1個人プランが提案された。いずれも早期の事業化を目指した意欲的なプランである。

図表1 提案されたビジネスプラン

プロジェクト名	提案者所属
琵琶湖レイラインツアー	奥伊吹観光株式会社
	株式会社 JTB
	Smile Heart
	琵琶湖汽船株式会社
	Ji-mo design
笑顔があふれるウエルネスツーリズムユニバーサルプラン	一般社団法人栗東市観光協会
	一般社団法人神戸六甲健康保養地研究所
	株式会社サンリツ
	フリーヨガインストラクター
比良比叡トレイル 52Km 走破、笑顔になれる近江の食と体験	宿屋 きよみ荘
	一般社団法人日本巡礼
	Village to Table Tours
	株式会社湖国の風
2泊3日よみがえりの旅	琵琶湖ホテル
	株式会社イヴケア
	医療法人社団 仁生会 甲南病院

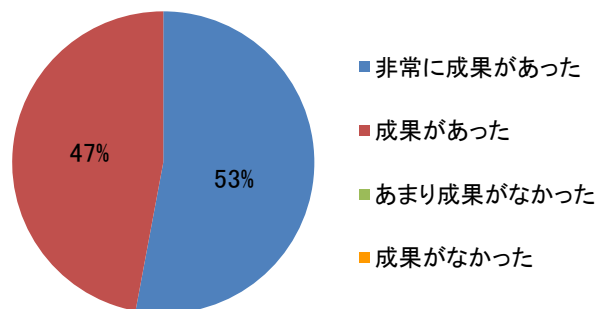
プロジェクト名	提案者所属
湖東ビワプチ	株式会社地域経済活性化支援機構
	近江八幡観光物産協会
	びわ湖大津プリンスホテル
	株式会社未病マーカー研究所
	株式会社 JTB
コロナ渦の今だからこそ取り組むプロセス・ツーリズムツアー	一般社団法人日本巡礼
びわ湖を見ながら比良比叡トレイルで深呼吸	株式会社湖国の風
	一般社団法人神戸六甲健康保養地研究所
金勝山ウエルネスツーリズムセミナー	一般社団法人栗東市観光協会
	フリーヨガイストラクター

②受講者の満足度

受講者は高い満足度を示した。

図表 2 受講者の満足度

	回答数	割合
非常に成果があった	9	53%
成果があった	8	47%
あまり成果がなかった	0	0%
成果がなかった	0	0%
合計	17	100%



(自由意見)

・興味を持っていた分野を素晴らしい講師陣から教わることが出来たこと。実際、事業を進めている中で悩んでいたことなど、講座を通し違った道を示すことが出来るようになったこと。普通なら関わることのない業種の方とのネットワークが出来たことは良かったと思う。これから、実際の事業に活かして初めて本当の成果なので引き続き頑張りたい。

③人材育成効果

本講座の特徴は、観光産業の中核人材の成長のために最も重要なビジネスプランの作成能力を身に付ける所にある。観光を取り巻く環境が大きく変わる中、中核人材は自社や地域の資源を活用して、新事業を構想、実践することが期待されている。自社の強みと弱みを分析し、ターゲットを定め、他社との連携も検討し、ビジネスプランを作成する力が問われているのである。学習理解度に関するアンケート調査でも、開講時に最も弱いと認識していた「⑦ビジネスプランニングの理解と事業計画の作成」が修了時に最も向上していることがわかる。

受講者は、本講座修了後、自社に戻って、自らが中心となり、自ら作成したビジネスプランを実践していくこととなる。本講座は中核人材として成長するいい機会を提供できたと考えている。

図表3 受講者の学習理解度の向上

項目	開講時	修了時	増減
①日本の観光政策や人材育成への理解と対応	3.3	4.2	+0.9
②ウエルネスツーリズムの理解	3.5	4.4	+0.9
③自社関連地域の魅力や資源の理解	3.9	4.2	+0.3
④自社の魅力や資源の理解	4.2	4.6	+0.4
⑤ウエルネスツーリズムに関する先進的な取組みの理解	3.4	4.4	+1.0
⑥自社マーケットの選択と独自ポジションの構築	3.3	4.0	+0.7
⑦ビジネスプランニングの理解と事業計画の作成	2.9	4.2	+1.3
⑧ビジネスプランのプレゼンテーション	3.2	3.9	+0.7
受講者全体平均	3.5	4.2	+0.7

(注)5:かなりできている 4:できていることもある 3:どちらともいえない 2:あまりできていない  
1:ほとんどできていない

修了式の光景



(文責 教授 石井 良一)